

学校伝染病一覧表

2008. 5施行

この一覧表にあげた病気は、学校伝染病といわれ、たとえ軽症でも登校できません。かかったら学校に届けを出し、医師の許可があるまで家庭で安静にしていってください。これは法律で定められた「出席停止」で、欠席扱いになりません。



第1種学校伝染病 治療するまで出席停止とする

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎(ポリオ)、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がSARSコロナウイルス)、鳥インフルエンザ(病原体がインフルエンザウイルスA属インフルエンザAウイルスであってその血清型がH5N1)

第2種学校伝染病 診断がいたら学校へ速やかに連絡する。医師の指示に従い出席停止期間、患者の隔離を守る

病名	出席停止期間	主な症状	進入経路	潜伏期間	伝染可能期間	予防方法	好発季節
インフルエンザ (鳥インフルエンザを除く)	解熱した後2日を経過するまで	急な発熱、頭痛、全身倦怠感、筋肉に力が入らない、肉や関節の痛み	気道 飛沫	1~3日	発病後3~4日	流行時には人ごみの中ではマスク、うでたて、手洗いを。予防接種も効果があるが菌種が異なると効力がない	冬
百日咳	特有の咳が消失するまで	はじめは軽い咳、のどの発赤がみられる。発病後1週間くらいからひどい咳の後ヒューと音を立てて息を吸う症状が長く続く	気道 飛沫	1~2週	発病後4週間	患者に近づけない 予防接種	夏
麻疹 《はしか》	解熱した後3日を経過するまで	発熱、咳、鼻水、目やに。頬の内側に白い斑点コプリック斑ができる。発熱後4日目より皮膚に発疹	気道 飛沫	9~12日	発疹のできる5日前からでた後4日間	患者に近づけない 予防接種	冬~春
流行性耳下腺炎 《おたふくかぜ》	耳下腺の腫脹が消失するまで	37~38℃の発熱。耳の下(両側)または、片側)が大きく腫れて痛む。食欲不振、えん下困難	飛沫	2~3週	発病前7日から発病後9日間	患者に近づけない 予防接種	冬~春
風疹	発疹が消失するまで	発熱、発疹、耳の後ろ、首、わきの下などの腫れ。結膜が充血	気道 飛沫	2~3週	発疹のできる7日前からでた後7日間	患者に近づけない 予防接種	春~夏
水痘 《水ぼうそう》	すべての発疹が痂皮化するまで	水泡のある発疹がからだ中に次々と出る。かさぶたとなり、先に出たものから治っていく	気道 飛沫	2~3週	発疹のできる1日前から後の6~7日	患者に近づけない 予防接種	冬~春
咽頭結膜熱 《プール熱》	主要症状が消退した後2日を経過するまで	発熱、のどの痛み、結膜炎、首のリンパ節の腫れ	気道 結膜接触 汚染物	5~7日	発病後2~3週間	眼やのどの健康観察を行い、充血している者や目やにの出てくる者は水泳禁止とする	夏~秋
結核	病状により学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認めるまで	初期は自覚症状なし。X線で見られることが多い。疲労感、寝汗、微熱、肩こり、咳、たん	飛沫	1~2ヶ月		BCG接種 X線による早期発見 栄養と休養に注意	なし

第3種学校伝染病 病状により、学校医その他の医師において伝染のおそれがないと認めるまで

病名	出席停止期間	主な症状	進入経路	潜伏期間	伝染可能期間	予防方法	好発季節
コレラ	病状により、学校医、その他の医師において伝染のおそれがないと認めるまで	米のとぎ汁のような水様便、嘔吐	経口	1~2日		手洗いの励行 トイレ消毒 加熱消毒を充分にすること	春~夏
細菌性赤痢		血便、発熱、しぶり腹		4~8日			
腸管出血性大腸菌感染症 《O-157など》		激しい腹痛ではじまり、数時間後に水様性の下痢を起こす		1~2週			
腸チフス パラチフス		高熱、腸出血		5~7日			
流行性角結膜炎		涙がよく出る 目やに、異物が入っている感じ	気道 結膜接触 汚染物	5~7日	発病後2~3週間	伝染力が非常に強いので患者の触ったものをよく消毒しておく 手洗いの励行 水泳禁止	春~夏 5月頃
急性出血性結膜炎		結膜が充血する					
その他の伝染病	病状によっては、学校医その他の医師の診断により登校可能	溶連菌感染症、手足口病、伝染性紅斑(リンゴ病)、マイコプラズマ肺炎、パンギーナ、流行性嘔吐下痢症(ロタ、ノロなど)、ウイルス性肝炎、など					ヘル

